

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650280211		
法人名	医療法人 真誠会		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字四の越3番		
自己評価作成日	平成24年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年8月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は旧吉野川河口の静かな場所に位置している。周囲には名産の鳴門金時が栽培され、芋や大根の成長を身近に感じることができる。職員は利用者一人一人の生活歴や個々の能力を把握し、役割を担って頂いたり。快のキーワードを用いて日々のコミュニケーションを行っている。地域の各機関とも積極的に交流・連携しており、地域の小学生の下校時には、安全を守るために子ども安全パトロールを実施している。また地元老人会の定例会や清掃活動、保育園の行事などにも参加し交流を深めている。また昨年からは地元の自主防災会にも加盟させて頂き、避難訓練や防災講座等にも参加し地域との関係を強化している。医療連携体制を整備し、医師や看護師と日頃から連携し、看取りケアもしている。また全職員は普通救命講習を受講し、医療従事者との連携に備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯に囲まれた落ち着いた環境のなかに位置している。周囲は交通量も少なく、利用者が散歩や運動するのに恵まれている。管理者と職員は、事業所の理念に基づき、利用者が安心して暮らすことできるよう取り組んでいる。地域に開かれた事業所を目指し、保育所の運動会へ参加して交流を図ったり、小学生の安全を守るためのパトロールを実施したりして、積極的に地域との交流を図るとともに、地域住民の安心・安全を高めるための取り組みも行っている。また、自治会や老人会の行事へ参加したり、ボランティアの受け入れを行ったりして、馴染みの関係を保ちつつ安心して暮らすことができるよう支援している。運営推進会議に多数の地域住民の参加を得ており、活発に討議や検討を行って、サービスの質の向上に繋げている。医療連携体制を構築し、利用者や家族が安心して暮らすことができるよう支援している。事業所内は、明るくて穏やかな雰囲気がある。利用者と職員は、ともに寄り添って生き生きと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を共有し、一人一人が住み慣れた場所で地域とのつながりを保ちながら、安心して、その人らしい生活が送れるよう支援している。	日ごろから、理念の“住み慣れた町でその人らしく暮らし続けられるよう支援する”に基づき支援している。管理者と職員は、毎朝の申し送りやミーティング時に理念を確認し共有化を図っている。また、理念に基づく詳細な年度目標を作成して事業所内に掲示するなどし、理念を実践に反映しやすくするための取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	保育所や小学校、老人会、自治会等の行事へ参加している。小学校の資源ごみ回収や地域の清掃活動、花植え、保育所の運動会等に参加し、地域住民との交流を積極的に行っている。	職員は、地域の一人としての自覚をもち、外出時の挨拶や保育所・小学校の行事への参加、町内の清掃活動や花植え等を行っている。地域住民と積極的に交流を図り、馴染みの関係を構築するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会等に参加し、認知症ケアに関する啓発に努めている。また、積極的に高校生や社会人の実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の課題や取り組み等を発表している。参加者から様々な意見や提案等を出してもらい、サービスの質の向上に反映している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の課題や取り組み等を発表し、参加者から意見や提案を出してもらっている。出された意見について検討しサービスの質の向上に反映している。会議は、利用者のプライバシーに配慮したうえで、併設事業所で開催している。また、同一法人の運営する他サービス事業所と時間帯を分けるなどの工夫を行って、同じ場所で開催している。	参加する家族や地域住民等の負担軽減のため、同一法人の運営する他の事業所とともに運営推進会議を開催しているが、利用者のプライバシーなどに配慮し、時間帯を分けるなどの工夫を行っている。今後、事業所の現状や実状等を直に理解してもらえよう、家族や行政との調整を重ねたうえで、事業所の見学を毎回実施したり、事業所単独での開催に向けた検討を行ったりして、さらに質の高いサービスに繋がれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回、介護相談員の来訪があり、日ごろの生活状況を見学してもらっている。また、年2回の介護相談員報告会では、介護相談員や市職員等から貴重な意見を出してもらってサービスの質の向上に反映している。	事業所の実情やサービスの取り組み状況等を伝えている。把握した利用者の暮らしぶりや要望を伝え、助言をいただくなどして協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室を開錠しており、外出の希望があるときには、さりげなく同行するなどしている。利用者一人ひとりが自由に生活を送ることができるよう支援している。	日中、利用者の安全面に留意したうえで、玄関や居室を開錠している。利用者の表情や動作等から、外出の希望を感じたら、さりげなく声かけを行ったり、一緒について行ったりしている。職員は、利用者の人権を守ることがケアの基本であることを認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を職員間で回覧している。日ごろから、全職員でケアが虐待に繋がらないよう注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に不利益が生じることのないよう、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修や資料・パンフレットなどを通じて理解を深め、必要に応じて話しあって活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容や重要事項について詳しく説明し同意を得ている。また、重度化やターミナルケアについても詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり家族会を開催するなど、家族が自由に意見を出せる機会を設けている。月2回介護相談員を受け入れ、入居者の意見などを聞いてもらえる場となるよう努めている。	運営推進会議や家族会等の際、意見や要望を聞き検討している。事業所内の2か所に意見箱を設置している。月2回の介護相談員の来訪時に、利用者が意見や要望を表出しやすいよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や思いをくみ取れるよう日頃からコミュニケーションを図っている。また、年に何度か気軽な雰囲気では話ができる場を設け職員のリフレッシュを図っている。	代表者は、職員が意見や要望を表出しやすいよう、頻りに事業所を訪問している。日ごろから、職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。管理者は、週1回の役職者会へ出席し、職員から出された意見や提案を運営面に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームに来られ、職員の思いや希望を聞いたり職員一人一人の勤務状況などを把握し、よりよい労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回定期学術勉強会を開催し、日頃の取り組みについて発表をしたり、外部研修会にも出来るだけ多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修会などに参加することにより、研修会への参加活動を通じて交流を図りサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人と面会をし生活状況を把握し、本人の思いに寄り添い安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の暮らしや家族の思いをしっかりと受け止めることにより、少しでも安心して頂き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には自宅訪問や事業所への来苑があり、相談の機会を通じて本人や家族の思いや要望に耳を傾け、サービスの導入に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、一人一人の得意分野を引出し、日々の生活の中で発揮して頂ける機会を設け職員とともに助け合いながら共に生活しており、人生の大先輩として常に敬うに持ちを忘れないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の生活状態などを伝え、入居者が家族と共に過ごせる場を提供し、職員とも交流を持ちながらより良い関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ買い物に行ったり、友人に会う機会を提供したりしている。ご家族のお墓参りにも出かけている。	馴染みの商店や寺院へ行ったり、友人に会う機会を確保したりして、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格などを把握し、孤立やトラブル等のないよう入居者同士が楽しく生活できるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、これまでの情報を詳しく提供し、新しい環境でも継続して落ち着いた生活を送って頂けるよう関係を断ち切ることなく相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者を良く観察し、本人の言葉や表情、しぐさなどから利用者の真意や意図をさし測ったり、思いや希望を把握するよう努めている。	日ごろの関わりの中かで、表情や言葉から希望や意向を把握するよう努めている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得たり、本人の生活史から情報を得たりして、思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を職員間で把握し共有することで日々の介護に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の日頃の様子をしっかりと観察し、関わりを持つことにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で利用者の意向を把握している。家族の面会時に要望などを聞いたうえでアセスメントやモニタリングを行っている。また、変化に応じて見直しを行っている。	利用者や家族の意見・要望を取り入れ、関係者間で話しあって、利用者がより良く暮らせるための介護計画となるよう留意している。定期的に、アセスメントやモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事や水分量、排泄などの身体状況を記録しており、生活の様子や言動、体調の変化なども記録し、職員で確認と共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、都合などに合わせて医療機関への送迎を行っている。また、馴染みの場所や買い物等の外出を支援し、一人一人の満足度を高められるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活を続けられるよう、保育所や小学校、老人会や自治会と連携を図っている。運営推進会議の参加者と連携を密にとり情報交換や協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって利用前からのかかりつけ医を受診できるように通院介助を行い、継続して適切な医療が受けられるよう配慮している。また、かかりつけ医と情報交換を行い関係を密にしている。	多数の利用者が、母体法人の運営する医療機関を主治医としている。利用者や家族の希望に応じて、受診や通院の支援を行っている。家族に受診結果を報告し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携サービスを整備し、看護師と日頃から利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が出来るよう関係を築いている。体調の変化があった時には連携記録を備え適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮し早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図り、重度化や終末期のあり方について出来るだけ早期から話し合いの場を持ち、対応方針の共有を図り支援に取り組んでいる。	重度化に係る指針を策定し、重度化した場合や終末期の支援に向けた体制を整えている。契約時の段階で、本人や家族に説明を行って同意を得ている。段階的に、本人や家族の意向を把握し、医師や職員、関係者間で連携して方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を修了しており、心肺蘇生法や人工呼吸法を取得している。また、医療機関への正確かつ迅速な情報提供が行えるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の配置と消防計画を消防署へ届けている。年2回消防訓練や消火訓練を実地し火災時に備えている。また、運営推進会議でも地域の方に協力をお願いしている。	年2回、消防訓練や防災訓練を実施している。定期的に避難経路の確認や誘導を行って防災や火災に備えている。管理者や職員は、消防署の講習や普通救命講習を修了している。災害時の急変や緊急事態に備え、体制の強化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、人権を気遣う心を持ち、利用者を主役としたケア、介護される立場に立ったケアを実践している。	利用者の気持ちを大切にすることと、何らかの意思を表現できるように援助することが、大切であるとの認識にたち、介助が必要な時にも誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者の表情やしぐさ、態度などから思いに寄り添い、本人が自分の意志で決められるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムをやペースを尊重し、ご自分で意志決定できるよう支援をし、一人一人の状態や思いに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを尊重し、その人らしいおしゃれができるよう支援をしている。月に一度、美容師が来苑し、利用者の希望にそった整髪を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の作成した献立にそって入居者と共に買い物に行き、食材選びから、下ごしらえや調理、盛り付け、配膳など職員と一緒にいき、楽しい食事となるよう支援をしている。	利用者と職員は、献立にそって買い物に行っている。下ごしらえから調理、盛り付け、配膳、下膳、片づけの一連の動作を家庭にいるのと同じ思いで行い、楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立によりバランスの取れた食事を提供している。毎日の食事量、水分摂取量も記録し食事量の少ない方には医師の指示のもと捕食を提供し摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じて見守りや声掛け、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のサインやパターンを把握し、さりげない誘導や声掛け介助を行い出来るだけトイレでの排泄を促し能力に合った支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を第一と考え、利用者自らの意思を表現できるよう、自尊心に配慮した声かけや誘導の支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者には、水分補給や適度な運動を促し、できるだけ薬に頼らないよう対応をしている。また、排泄チェック表を作成し、排泄パターンを全職員で把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じて好きな時間に入浴して頂けるよう支援をしている。また、羞恥心や自尊心を傷つけることのないよう、無理強いをすることなく、ゆっくと入浴を楽しんで頂けるよう支援をしている。	利用者の体調や希望に応じた入浴の支援を行っている。管理者や職員は、利用者の気分転換のために入浴剤を用いたり、温泉気分を味わってもらうためにのれんを掲げたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣などを把握しながら、できるだけ規則正しい生活を送って頂き、良眠を促している。また、眠れない方にはお茶を飲みながらお話を伺うなど、安心して頂けるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤一覧表を作成し、薬の効能や副作用について理解し、飲み忘れのないよう見守りや介助を行っている。また、誤薬を防ぐ為に職員がチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や買い物、家庭菜園や編み物、キーボードなど、利用者が好む趣味などを提供し役割として担って頂くことで生きがいを感じていただき楽しみながら気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見やドライブ、阿波踊り見物や地元の催しものなどに出かけたり、希望にそった場所、お墓詣りや映画鑑賞などにも出かけられるよう支援をしている。	日ごろから、利用者は食材の買い出しや散歩に出かけるなどしている。職員は、利用者が外気に触れることができるよう配慮している。また、初詣や花見、地元の催しもの、墓参り等を計画的に支援している。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしている預り金の中から買い物時にお渡しし、希望に応じた買い物をさせていただいている。また、混乱のないよう声掛けや見守りをし、出来るだけご自分で支払うことが出来るよう支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や職員の声掛けにより電話をかけ、遠方の家族の方や知人の方と交流が持てるよう支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の各場所には分かりやすいように大きく表示をしたり、四季折々の掲示をし季節感が感じられるよう支援をしている。また、季節ごとに花や野菜を育て収穫を楽しまれている。	リビングは日当たりがよい。窓からは、吉野川や周囲のサツマイモ畑を眺めることができ、四季の移り変わりを感じることができる。また、利用者の混乱防止のため、廊下に分かりやすい大きな表示をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が各居室で自由に過ごせたり、リビングでは皆でTVを観ながら寛いだり談話をしながら寛げる空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にお話し、慣れ親しんでいる家具や写真、楽器や寝具などを持ち込んでいただき本人が安心して過ごせるよう支援をしている。	利用者一人ひとりに使い慣れた家具や家族の写真、お気に入りの楽器等を持ち込んでもらっている。居室の壁面には、家族との思い出の写真等を飾っており、自分らしく居心地良く暮らすことができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能の状態に合った手すりや取っ手、家具などが設置されており、安全で使いやすいよう工夫されている。また、混乱などのないよう見守りや介助を行い自立支援に努めている。			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パーソンセンタードケアの視点で創られた理念があり、支援に困ったときや、迷ったときなど必ず理念に立ち戻り、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の老人会や保育園の各種行事に声をかけていただき参加している。また小学校のリサイクル活動や子供安全パトロールなど小学校とも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談や見学などいつでも受け入れている。中学・高校生の職場体験など積極的に受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回取り組み内容の報告を行い、委員の皆様から意見を頂き、出た意見を実践に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや、鳴門市いきいきボランティアの受け入れなどに協力し、関係強化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者はじめ全職員が身体拘束を行わないという決意をしている。またその弊害についても理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関して代表で管理者が研修を受け、職員に周知伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修も代表で管理者が受講し、職員に周知している。また同一法人の地域包括支援センターと協働し、それらについて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の不安や疑問は必ず確認し、納得頂いた上で契約書に記入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に意見や要望をお聞きし、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する提案はいつでも受け付けている。また年2回職員面談を行い、意見を聞く機会を設けて運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力を把握しようと現場に來られたり、内部勉強会などの発表を必ず確認・指導してくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で内部勉強会を定期的に持ち、参加している。また徳島県の認知症介護実践者研修やグループホーム協会県支部の研修会にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他のグループホーム職員を招待したり、グループホーム協会の研修の機会などを通じて同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を軽減・解消するために、本人の思い出話などに耳を傾け、生活史の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前、契約時、開始後といつても家族の意見や要望に耳を傾け、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人や家族の思いを聞き取り、思いにそった支援ができるよう検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑での野菜作りや、毎日の調理など利用者の方が教えて下さる場面がよく見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も本人を支えるチームの一員として考え、生活史や入居前の生活など情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があった利用者は、家族の理解・協力を得て、職員がお墓参りに同行するなどの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を日頃から把握し、利用者が孤立しないような配慮・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先でスムーズに生活が行えるよう、サマリーを提供している。また必要や要望があれば退去後も相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉はもちろん、表情や仕草などから、その真意や意図を推し測るなど、なじみの関係の中で得られる意思の疎通を重視している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後とも本人・家族に随時、お話を伺いこれまでの暮らしの把握に努めている。居宅のケアマネや他事業所の専門職から情報を提供して頂くときもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴から、長いあいだ営んでこられた生活リズムをつかみ、それを全職員が共有し、利用者一人一人の姿を見つめ、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメント・モニタリングを行い、生活上の課題とケアの対応を検討している。また介護計画の作成にあたっては、家族の意見や要望も反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人個人の日々の生活の様子を記録している。職員は始業前に記録に必ず目を通して確認し、業務に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ構想段階ではあるが、地域のニーズもあると思うので、共用型デイサービスを検討している。それによって現在利用している認知症が経度の利用者も自宅に帰れる方もいると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会の定例会や各種行事に声をかけて頂き参加している。また保育園や小学校などとも交流し、利用者が豊かで安心して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望された医療機関への受診を支援している。また主治医とは緊密に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の老健の看護師と連携し、利用者の健康管理について相談体制が構築できしており、点滴や採血などはホーム内で対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、利用者が入院した際は必要な情報提供を行う。また早期の退院に向けて病院関係者との情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する指針を作成している。ひなたぼっこで看取りを希望される利用者・家族に対して看取りの指針について説明し、同意を頂いている。希望に変化があった場合も柔軟に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、普通救命講習を受講修了しており、急変時等に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している老健とも協力し、災害時に備えている。また、地域の自主防災会に加盟させて頂き、地域の避難訓練等に参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人のプライドやプライバシーを尊重した対応をしている。接遇にも力を入れて勉強している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物について選択肢を設け、好きな物を選んで頂いたり、入浴時に入浴剤を選んで頂くなど自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を優先するのではなく、これまでのご本人の生活リズムやペースを尊重し、ご本人の希望や意向に沿った暮らし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方には洋服を買いに出かけたりするなどの支援を行っている。また月に1度美容師が訪問して下さり、希望にそったカットができるよう連携している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者とともに調理を行っている。若い職員が野菜の切り方など教えて頂く時もある。盛り付けや配膳などできる方に手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や栄養バランスは医師や栄養士などと連携し、意見・情報交換している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否ある利用者の方でも、夕食後には口腔ケアできるよう支援している。またハミンググッドの使用など、その人に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄状態を記録し排泄パターンの把握に努めている。できる限りおむつの使用に関しては慎重に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材の提供や、散歩などの運動を支援することで、できるかぎり自然な排泄を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は固定されているが、その中で一番風呂や、湯音など応えられることは支援している。また、入浴剤の種類を豊富にし、その日はどの湯にするか選んで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも好きな時間に居室で休息されたり、自由に過ごして頂いている。また安眠できるよう日中散歩や体操など行っている。夜間は居室の空調管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤師から提供される薬の説明所を必ず確認し、副作用などについても確認している。薬が変更になったり、新規で処方された場合は状態の変化がないか注意して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や能力を把握し、調理や買い物、野菜作りなど行い、役割を担って頂いたり、楽しみの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の理解や協力を得ながら、お墓参りに出かけたり、本人の希望で映画を観に出かけることもあった。夏の阿波踊りを始め季節を感じるイベントや、神社・お寺など本人の希望にそった外出支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者には自己にてお金を管理して頂いている。こちらが管理している場合でも必要な時、いつでもお金が使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、携帯電話を持ってきて頂き、自由に家族と通話されている。また利用者から家族へ、家族から利用者へいつでも事業所の電話を取り次いでいる。また毎年の年賀状は家族にも好評頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中生活する居間や食堂など季節を感じるように時期によって壁面の飾りつけなど変更している。また廊下にトイレの案内を掲示し、混乱のないよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道兼居間の空間では、テーブル席の他にソファや畳のスペースがあり、思い思いの場所でくつろいで頂けるようになっている。また廊下にもベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや家族・本人の写真や手紙など掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫・配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	壁面には、時の見当識障害に配慮した工夫をしている。また廊下の手すりやトイレの介助バーなど安全と自立に向けた住環境を整えている。		